



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.20 2007.5



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

目次

	ページ
●特集 ジェームス・C・アベグレン先生の御功績	1
●イベント報告 進化経営学	3
高齡化社会とリスクマネジメント	3
●コラム セクターイノベーションシステム～ナノテク分野について	3
●最近の動き	4
●イベント予定	4
●連絡先	4

特集

去る5月2日、経営学者で日本の経営研究の第一人者であったジェームス・C・アベグレン先生がご逝去されました。今月号では、アベグレン先生の本研究センターへご貢献を振り返りつつ、先生のご冥福をお祈りします。

ジェームス・C・アベグレン先生御功績

SIMOT リサーチセンター評価委員長 中原 恒雄



ジェームス・C・アベグレン氏

本年5月2日享年81歳で逝かれたアベグレン先生は、日本の経営研究の泰斗として余りにも有名であります。先生が昨年2月に、東工大におけるSIMOT 国際シンポジウムで、「会社の再設計」という題で特別講演をされたことは余り世間に知られていないかも知れません。その際真摯にお話しておられる先生のお姿が、ありありと臉に残っております。先生を評価委員にお願いしたSIMOT関係者の慧眼に感服するとともに、偶々評価委員長を拝命した幸運に深謝する次第であります。

終身雇用、年功序列といった日本式経営を実践してきた我々世代にとっては、世界的な経営学の巨星アベグレン先生の名著「日本の経営」が、長らく心の支えでありました。これを基盤として、イノベーションとインスティテューションの日本型共進ダイナミズムを解明しようというのがSIMOTの原点であります。先生のご冥福をお祈りすると共に、SIMOTの今後の発展を誓いたいと思います。

ジェームス・C・アベグレン先生は、1955年フォード財団の海外研究員として米国から初来日、「日本の経営」を著して、“終身雇用(Lifetime Commitment)”や“年功序列(Seniority System)”など、日本企業の特徴を海外に紹介されました。その後、ボストンコンサルティンググループの設立に関与され、初代日本支社長を務められ、日本に永住後は、上智大学教授、グロービス経営大学院大学名誉学長兼教授、アジア・アドバイザー・サービス会長として活躍されました。

主な著書に、

日本の経営〔新訳版〕(2004 日本経済新聞社) 新・日本の経営(2004 日本経済新聞社)

カイシャ - 次代を創るダイナミズム(共著/ジョージ・ストーク 1986 講談社)

東アジア巨大市場 - 日本は「脱米入亜」に舵を取れ(1994 TBS ブリタニカ)

が挙げられます。

このような先生のご功績は、神戸大学大学院経営学研究科教授加護野 忠男先生が「アベグレン先生の著書には『日本の経営は、文化相対主義の視点から、欧米との違いはあって当然であり、もっと自信をもってよい』という日本人への一貫したメッセージが読み取れる」と述べられている(5月15日付日本経済新聞)ことに集約



されます。

SIMOT リサーチセンター評価委員を務めていただいていたアベグレン先生には、2006年2月の第2回国際シンポジウムに、基調講演者としてご参加いただき、「Redesigning the

Kaisha - new systems; lasting values」(カイシャの再設計：新たなシステムと不変の価値)をテーマにご講演いただきました。

ご講演では、日本のカイシャの成功と失敗、その歴史を解説され、より高いレベルでの価値創造として要求される国際的社会貢献について述べられました。

また、昨年11月には、社会理工学研究科10周年記念式典にも来賓としてご出席いただき、「社会理工学研究科の発展には、SIMOTの研究の深化が貢献するであろうことを確信され、その発展が期待される」との励ましのお言葉を頂戴しました。

アベグレン先生は卓越したフィールドワーカー、現場主義者であり、その日本企業や日本の経営のみならず、日本文化、社会に関する洞察は今尚色褪せることなく、研究者だけでなく実務家にとっても確固たる基点と認識され続けるものと思われます。



■ イベント報告 ■

進化経営学 - インスティテューショナル技術経営学への示唆 (4月20日 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会 4月例会では、東洋大学経営学部教授の松行康夫氏に、「進化経営学」とのテーマで講演していただきました。

松行教授は、「進化経営学」の論点として、経営組織の進化的現象に注目し、経営組織の「ゆらぎ」を通じた経営管理の重要性を強調されました。

経営主体が環境の大きな変化に対応して存続していくには、マネジメントの内部に「ゆらぎ」が必要不可欠である、とのお話は、「リーダーの指導力・顧客の牽引力の下、想定外の外的ショックを外生化、意図的な変化誘導を内生化させることで、両者巧みに融合することによる相乗効果が発現される」という SIMOT の視点に対して大いに示唆に富んだものであり、今後の研究・教育を進めていく上での指針となりました。

高齢化社会とリスクマネジメント - 「全労協寄付講義」開設記念公開シンポジウム (4月21日 東工大)

SIMOT リサーチセンターが所属する社会理工学研究科と全労済は、社会保障制度に関する共同研究を推進するための研究・教育ネットワークの構築の一環として、平成 19 年 4 月より全労済寄付講座「生涯設計のためのリスク管理と労働福祉」を開設いたしました。本シンポジウムは、基調講演およびパネルディスカッションの 2 部から構成され、同寄付講座開設を記念するとともに、共同研究の実質課題として、高齢化社会の到来を踏まえたリスクマネジメントのあり方について議論を展開しました。本リサーチセンターからは、SIMOT メンバーで 経営工学専攻長でもある伊藤謙治センター運営委員がパネリストとして参加いたしました。



■ コラム ■

「セクターイノベーションシステム ~ ナノテク分野について」

SIMOT リサーチセンター運営委員

東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科 教授 宮崎 久美子



私の研究室では、技術政策やセクター（分野別）イノベーションシステム、技術の普及、あるいはマイクロレベルの技術戦略に関する実証的研究を、IT分野、ソフトウェア、風力発電、ナノテクノロジー等を対象に行っている。ここではナノテクイノベーションシステムについて紹介したい。ナノテク分野は先進国において注目されている分野であり、各国は研究開発に資源を投入している。ナノテク分野のイノベーションモデルの解明やロードマップの作成、各国の競争力、ナノテクがいかに伝統的なサイエンスの分野に影響を与えているか、等について、論文や特許データソースを用いた手法や、イタリア、ドイツ、フランス、英国など、日欧のナノテク分野の第一人者である研究者とのヒアリング調査により、分析を行った。調査分析の結果、さまざまな発見があったが、興味深いものは、これまで分野として分かれていた、物理、化学、材料、バイオ等の伝統的サイエンス分野においてナノテク関連の研究が明らかに上昇しており、ナノテクを通じて、分野の境界線が曖昧になっているという点であった。ナノテクの共有知識基盤を通じて、異分野の研究者を結びつけていることを意味している。今までのナノテクイノベーションはサイエンスプッシュ型であったが、将来は、社会的問題を解決するデマンドプル型に変化して行くと考えられるが、我が国においてどのような方策をとればよいのかが、ポリシー研究の課題である。なお、興味深いもう一つの発見は、論文数を元に、各国の研究面のアウトプットを測ったところ、中国が日本を 2003-4 年にキャッチアップした点である。

記事掲載紹介 - 2007年4月16日付日本経済新聞朝刊 「人脈追跡」

4月16日付の日本経済新聞朝刊「人脈追跡」欄で、内田・鮫島法律事務所 弁護士で、SIMOT 特任教授およびSIMOT リサーチセンター センター員である鮫島正洋氏が紹介されました。記事では、日本アイ・ビー・エムから転身後、情報技術分野だけでなく、多方面で活躍している40~50代のOBが取り上げられ、鮫島氏は法曹界で活躍するひとりとして、掲載されました。鮫島氏は特許訴訟・ライセンス交渉などの技術法務、IT関連ビジネスモデルの契約スキーム作りが主たる専門で、今年度もSIMOTの講義「インスティテューショナル技術経営第一、第二」を担当していただく予定です。

■ 最近の動き ■

● 海外出張

- 渡辺 5月12日~17日 米国 マイアミ 国際MOT学会 (IAMOT)年次総会 (発表 セッション議長 理事会)
 5月31日~6月1日 韓国 ソウル 科学技術政策研究院 (STEPI) (創設20周年記念国際シンポジウム招待基盤講演)
 6月3日~6日 中国 大連 大連理工大学 (インヴェンションイノベーション共同研究の一環としての招待基盤講演)
 6月9日~13日 フィンランド Jyaskyla (フィンランドアカデミー等主催 EUROGEN 2007 国際シンポジウム Evolutionary and Deterministic Methods for Optimization and Control with Applications to Industrial and Social Problems 招待基盤講演)

■ イベント予定 ■

研究・技術計画学会 国際問題分科会 5月例会

- 日時 6月25日(月) 18:00~20:00
 場所 東京工業大学 百年記念館 第2会議室
 テーマ 「原子力発電の革新を促すインスティテューション構造の分析」
 - インスティテューショナル技術経営学への示唆
 講師 三ヶ田 麻美氏
 (国際原子力機関:IAEA 経済・エネルギー企画官、SIMOT リサーチセンター事業推進協力者)

東京工業大学 第5回 Inter-COE シンポジウム

- 日時 8月3日(金) 9:30~17:00
 場所 東京工業大学 大岡山キャンパス
 内容 主に高校生、大学生、一般を対象とした、東工大 COE 各拠点への参加型見学会、交流会、特別講演など

● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム
 「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
 東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内
 西9号館 208B号室
 TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250
 Email: nakane.m.aa@m.titech.ac.jp
 URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>
 編集者: 菊池 隆